

今までに公表した海域活断層に関する情報提供

P2 11月26日 石川県西方沖の地震について

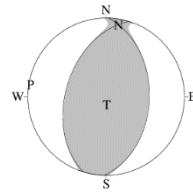
P3 珠洲市北東沖等において海底隆起を確認

11月26日 石川県西方沖の地震（波形相関DD法による震源分布）

期間：11月26日0時～27日24時、M2.0以上、深さ0～30km
M6.6の地震を星で表示

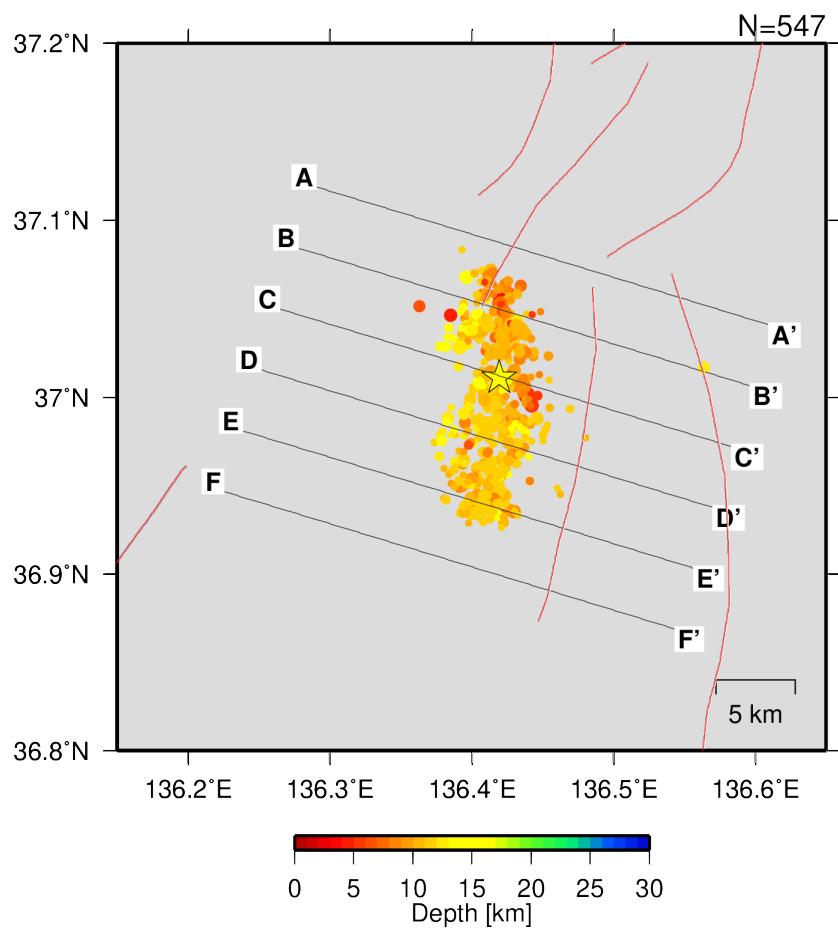
※hypoDD [Waldbauer & Ellsworth, 2000] を使用

M6.6の地震の気象庁CMT解

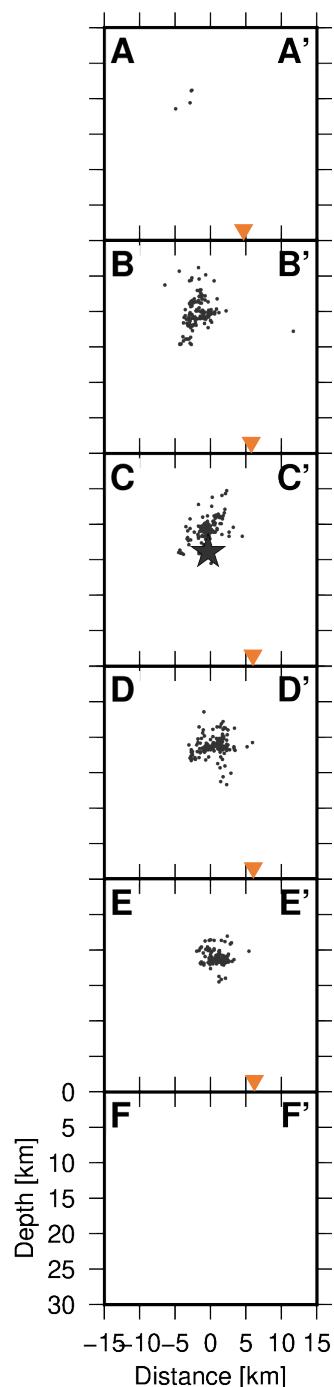


	走向	傾斜	すべり角		P 軸	T 軸	N 軸
断層面解1	2	44	79	方位	279	178	10
断層面解2	197	47	101	傾斜	2	82	8

震央分布図



投影面毎の断面図



震央分布図中の赤色実線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す
断面図中の橙色逆三角形は羽咋沖西断層の深さ0kmでの位置を示す

はくいおきにし



令和 6 年 12 月 10 日
海上保安庁

珠洲市北東沖等において海底隆起を確認 ～海上保安庁と北陸電力が地形解析で連携～

海上保安庁は、北陸電力株式会社と連携し珠洲市北東沖の水深データを解析した結果、これまでに海底隆起が確認されていた海域も含め、能登半島沖において約 80km にわたり隆起していることが分かりました。

1. 概要

令和 6 年能登半島地震発生以来、海上保安庁では能登半島沖において水深データを取得し、地震発生前のデータと比較することで、能登半島地震に伴う海底の隆起を順次、明らかにしてきました（参考 1）。

今回、新たに珠洲市北東沖と輪島市北方沖の地形変化が明らかになり、能登半島の北西から北東に存在が確認されている活断層に沿って、約 80km にわたり海底の隆起が生じていることが明らかになりました（図 1）。

2. 珠洲市北東沖

珠洲市北東沖では、海上保安庁と北陸電力が連携し、能登半島地震後に両者が取得した水深データと、令和 2 年に北陸電力が取得した水深データの比較を行いました。その結果、これまでに隆起が確認されていた海域よりもさらに東の海域の広範囲において、最大約 3m の隆起が明らかになりました（図 2）。

3. 輪島市北方沖

輪島市北方沖において、海上保安庁は、令和 6 年 11 月 3 日～13 日に海底地形調査を実施し、取得した水深データと平成 12 年及び平成 13 年に当庁が取得した水深データの比較を行いました。その結果、輪島市北方沖の海底が最大約 3m 隆起していることが明らかになりました（図 3）。

今回確認された一連の隆起域は既知の活断層の位置と概ね一致しており、この海底地形の隆起は令和 6 年能登半島地震で生じたものと考えられます。

4. その他

本成果とデータは、航行安全、漁業復興、津波防災対策等の安全対策に活用されます。

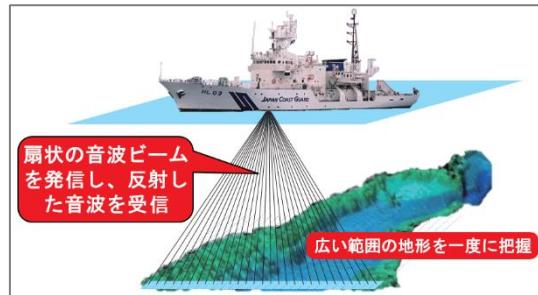
なお、今回の結果については、本日開催されている地震調査委員会に報告しています。

参考1 関連広報

- ・令和6年2月8日 「能登半島沖の海底で約3メートルの隆起を確認」
- ・令和6年6月11日 「珠洲市北方沖においても海底で約4メートルの隆起を確認」

参考2 測量船「海洋」による海底地形調査について

海底地形調査は、測量船「海洋」に搭載しているマルチビーム測深機を使用して実施しました。マルチビーム測深機は、船底の送受波器から海底に向けて音波を扇形に発射し、反射した音波を受信することで、面的に海底地形を調べることができます。



マルチビーム測深の概念図



測量船「海洋」

【船体要目】

就役年月	平成5年10月
総トン数	550トン
全長	60.0メートル
幅	10.5メートル

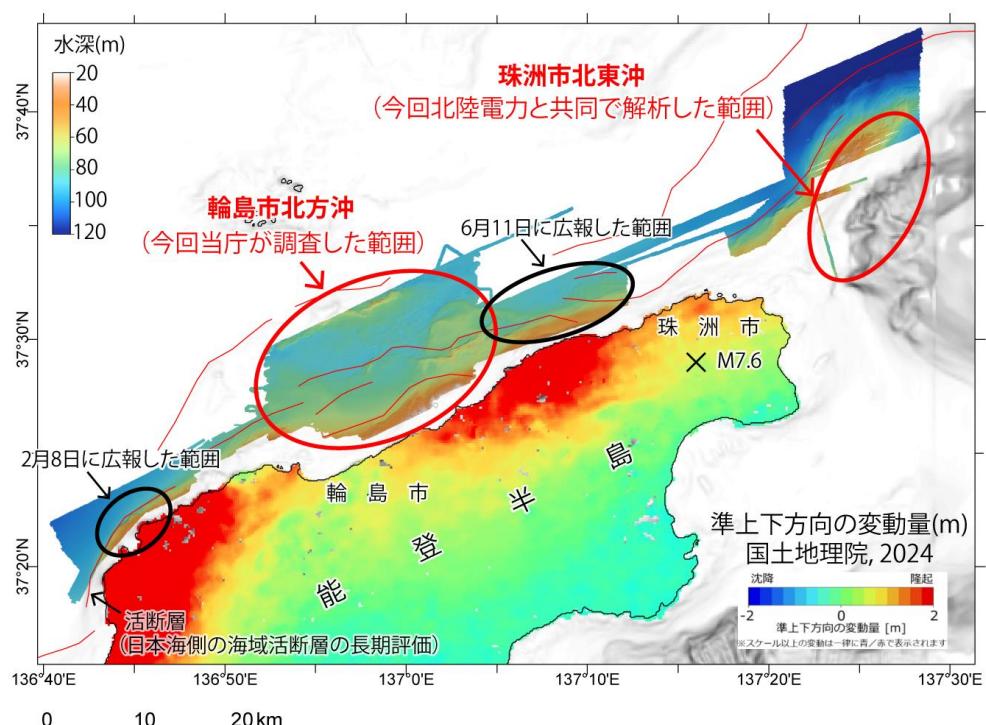


図1 2024年に海上保安庁が能登半島周辺で実施した海底地形調査

珠洲市北東沖

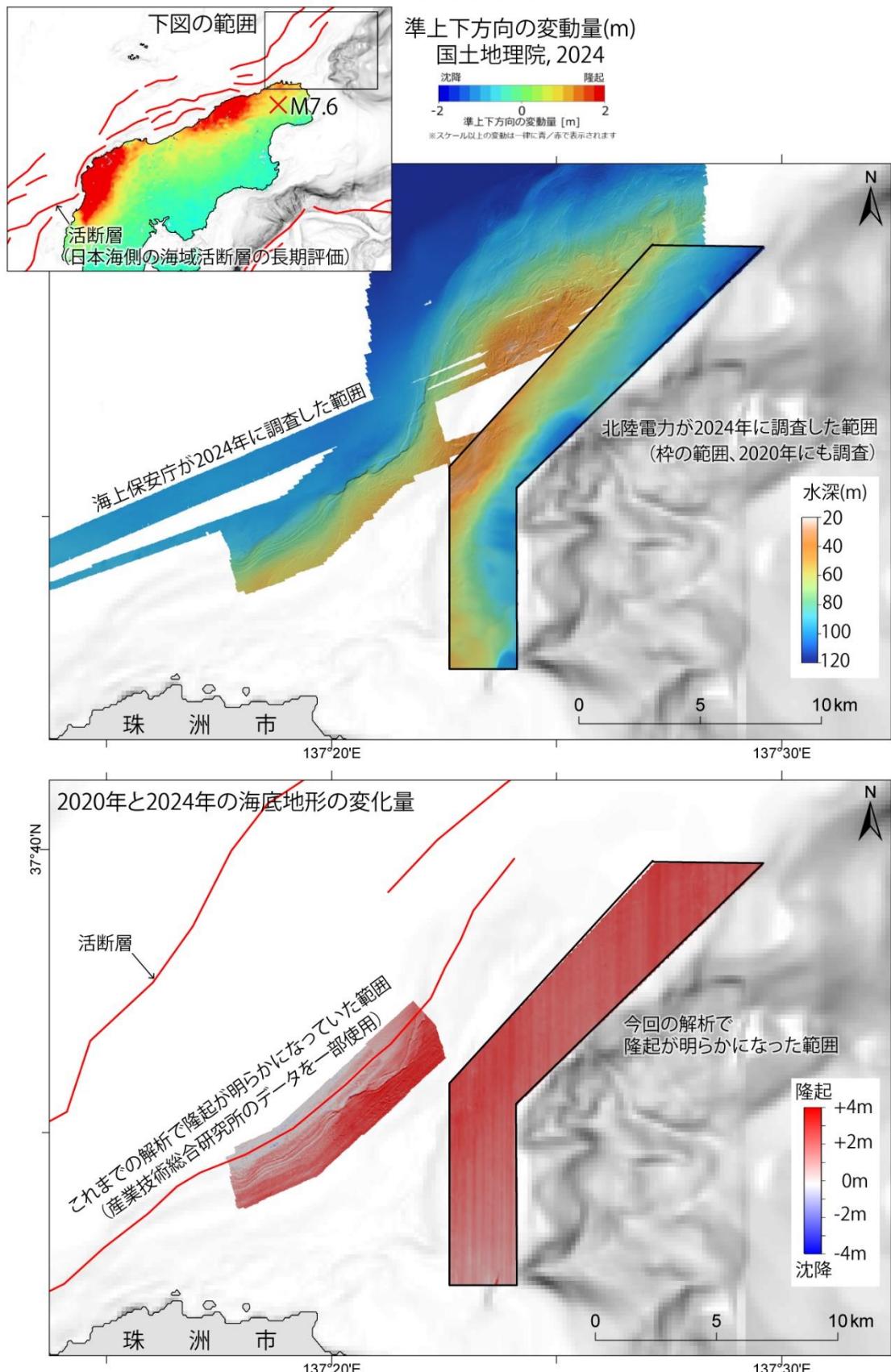


図2 珠洲市北東沖における海底地形解析結果

輪島市北方沖

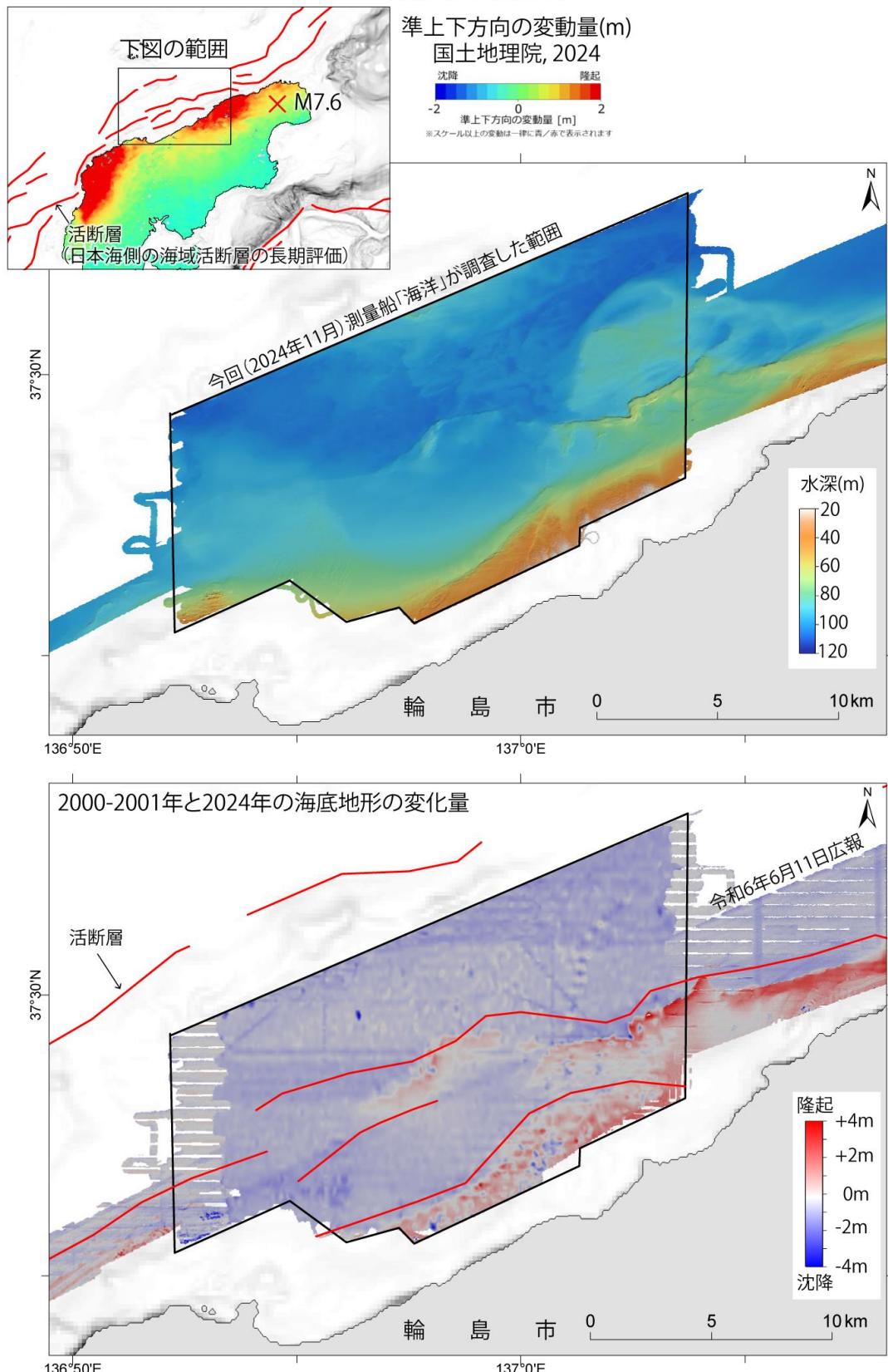


図3 輪島市北方沖における海底地形解析結果